

第3学年 授業改善推進プラン

	児童の実態から見える 指導方法の課題（重点項目）	具体的な授業改善策	○成果と▲課題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見や考えを明確にして、筋道を立てて相手に分かりやすく伝えられるようにする。 ○段落相互の関係について理解させ、目的に応じた文章を書けるようにする。 ○漢字の習得については、確実に児童全員が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチメモを準備し、話の中心点をはっきりさせたり、理由を明確にさせたりして発表するようにする。また、内容の順序を考えて、相手に分かりやすく伝えるようにする。 ・段落の要点に気を付けさせ、大事なことを落とさずに文章を書くようにする。また、目的に応じて、自分の考えを明確にしていくようにする。 ・新出漢字については、繰り返し学習し、確実に身に付けさせるようにする。定期的に習得しているかの確認を行い、習熟を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話題について、児童の興味・関心のあることや目的を明確にしたことで、内容を順序立てて伝えることができるようになった。 ○説明文の文章を丁寧に読み、段落関係を押さえたことで、自分の考えを書く力がついた。 ▲漢字については、繰り返し学習し、定着を図っていく必要がある。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ○地図や表、資料から必要な情報の読み取る力を付けていく。 ○身近な地域や住んでいる町を調べ、より地域社会に目を向けさせるようにする。 ○具体的資料を活用して、調べたことを工夫して表現する力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な種類の資料や地図を活用し、課題に対して必要な情報を取捨選択して整理させ、課題を解決できるようにする。 ・地域の様子や人々の生活を調べ、白地図にまとめたり、社会科見学を通して地域を理解したりして、地域に愛着をもたせるようにする。 ・課題に対して具体的な資料をもとに、工夫した表現方法を提示して、相手に分かるようにまとめさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域の学習では「わたしたちの文京区」を活用して情報を読み取ることで、より地域のよさを理解することができた。 ○社会科見学や昔の道具の実物を見せたことで、地域や昔の人々の生活について、自分の生活と結び付けながら考えることができた。 ▲資料を基に、自分の考えをもつことはできているが、自分なりに工夫してまとめる力をつけさせていく必要がある。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○要素に着目して問題を捉え、計算の意味や仕方を説明できるようにする。 ○見通しをもち筋道を立てて考察する力を付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて具体物を操作したり、言葉や式、図などを用いたりして、問題を整理する。児童が問題を構成する要素を捉え、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いてよさに気付いたりできるようにする。 ・既習内容を確認したり、算数的活動や具体物を用いた活動を行ったりする。学習の見通しをもち児童が主体的に問題に取り組めるような授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもたせることで児童が問題の解決に取り組めた。 ○個に応じた指導の実施により、学期初めに実施した東京ベーシックドリルの計算問題では、正答率が23%増加した。 ▲正答率を上げるため、クラス間で情報を共有する必要があった。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ○物の性質についての見方を知り、課題を解決していく力を付ける。 ○生物の様子や環境を理解するために体験的な活動を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光や磁石、電気などを働かせたときの現象を比べる活動を通して、自ら興味、関心をもって課題を追究していくようにする。 ・様々な植物を観察する活動を通して、生物の特徴をとらえさせ、環境とのつながりがあることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○予想を基に実験を行う活動の中で、児童は意欲的に学習に取り組み、問題を解決していく力がついた。 ▲学習内容を実生活と関連付けて、自然環境への興味関心や科学的に探究する態度を育ていく必要がある。

<p>体 育</p>	<p>○それぞれの運動領域で、基本的な動きや技能を身に付ける必要がある。 ○児童同士が運動を見合う場面を多く取り入れる。 ○学習カードを活用し、自己の能力を伸ばすようにする。</p>	<p>・準備運動の際に、主運動につながる動きを取り入れたり、基本的な動きが身に付く場の設定や補助具の活用をしたりする。 ・児童同士のかかわり合いを増やし、運動の楽しさや喜びを味わわせたり、技能を高めたりできるようにする。 ・自己の能力に適した課題をもち、個人カードやグループカードを活用しながら、運動能力を高めるようにする。</p>	<p>○運動を楽しく行う中で、基本的な動きや技能が身に付くようになってきた。 ○児童同士がお互いの動きを見合う場面を多く取り入れたことで仲間と楽しく運動する喜びを感じた児童が多かった。 ▲器械運動では、自己の能力に合ったためあてをもたせ、技能を高めていく必要がある。</p>
<p>総 合</p>	<p>○自ら課題を見付けて、問題を解決する力を付ける。 ○自分の生活と地域との関わりについて理解し、自己の生活に生かす。</p>	<p>・自分の興味関心から課題を設定させ、学習の見通しをもって計画的に取り組ませる。 ・地域の行事を調べたり、高齢者と交流したりして、地域の様々なことを知り、自分の生活に生かすようにする。</p>	<p>○学習内容を明確にして、見通しをもたせたことで、自ら課題を見付け、自分なりに工夫してまとめるようになった。 ○地域安全マップやお年寄りとの交流を通して、日常生活に目を向け、自己の生活を考えるようになった。 ▲様々なまとめ方を提示して工夫して表現できるようにしていく。</p>
<p>道 徳</p>	<p>○児童自ら道徳性を育み、自分の生き方についての考えを深めるようにする。 ○児童相互の考えを深められるように、物事を多面的、多角的に考える学習活動を行う。</p>	<p>・道徳的価値観の形成を図る観点から、書く活動や語り合う活動など自己の心情・判断等を表現する機会を充実し、自らの道徳的な成長を実感できるようにする。 ・児童同士が関わり、話し合う活動を増やす。資料について自分の考えを出したり、他の人の意見を聞いたりして焦点を絞って話し合う活動を行う。</p>	<p>○ワークシートの記入や話し合い活動を通して、児童は自分の考えを発表したり、深めたりするようになった。 ▲話し合いの視点を明確に示すことで話し合い活動を通じて道徳的価値への考えをより深められるようにする。</p>